キリシタンの奥方（おくがた）

17代当主朽木宣綱（のぶつな）の妻

鎌倉時代から江戸時代にかけて朽木の地を治めていた、朽木家の17代当主朽木宣綱の妻は、「マグダレナ」という洗礼名をもつキリシタンでした。

彼女は、湖北の京極家当主 京極高吉の娘で、母親は京極マリア（浅井長政の姉）とよばれるキリシタンでした。

朽木家へ嫁いできたマグダレナが、キリシタンとしてどのような生活をしていたかは定かではありませんが、2人の男子（長男竹松丸は、朽木家18代目当主の智綱（ともつな）、次男千代丸は峰山京極家の祖高通（たかみち））を授かっています。

しかし、次男の千代丸を生んだ3年後の慶長11年（1606年）に、病のため亡くなったと伝わります。

マグダレナの葬儀

彼女の葬儀は、京都の下京四条に完成して間もないキリシタン聖堂で行われました。その時のようすは、宣教師が本国に送った『耶蘇（やそ）会年報』（1606、07年のイエズス会の日本年報）の中に詳しく記載されています。そこには、「彼女の夫（朽木宣綱）は、葬儀を仏教僧に依頼したが、母の京極マリアがキリシタン葬を強く望んだので、夫の宣綱も最終的には承諾し、黒山の参列者の中、日本ではまったく新しく盛大な式典が執り行われた」と書かれています。

天文18年（1549年）に、ザビエルによって日本にもたらされたキリスト教は、宣教師の活動や織田信長による保護、キリシタン大名の出現などを経て、その信徒は70万人に達するほどとなりました。

マグダレナの墓

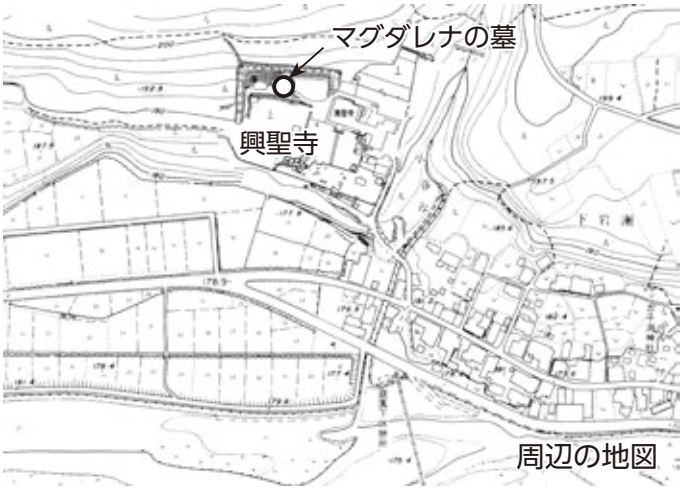
しかし、彼女の葬儀から間もない慶長17年（1612年）には、江戸幕府によるキリシタン禁令が出されるなど、幕府の取り締りは強化をたどり、元和4年（1618年）の京極マリアが亡くなったころには、キリシタンによる表だった活動はほとんどなくなり、急速に衰退していったとされています。

仏教徒となったマグダレナ

幕府の目を恐れた朽木宣綱は、妻マグダレナが仏教徒であったことをアピールするために、岩神館の跡地（現在の朽木岩瀬の興聖寺）に、その菩提を弔うために秀隣寺（当初は周林寺）を建立し、「秀隣寺殿桃岩永悟大禅定尼」の戒名を授与し、境内に墓を建てました。

建てられたマグダレナの墓は、今でも大切に興聖寺の境内に祀られ静かにたたずんでいます。

問 文化財課 ☎（32）4467



周辺の地図

編集雑感

平成最後の一年は、災害に多く見舞われますね。形として残っていた思い出まで、一瞬にして奪っていく災害は本当に恐ろしいものだと身をもって感じた次第です。 さて、平成も残り6か月となりました。毎年やってくる年末とは違って、年号が変わる前に“何か残したい！”なんて思うのはご共感いただけるでしょうか？ 思いきれずにいることを始めるには、ちょうどよい時期かもしれません。平成の思い出の一つにしてみるのも良いかもしれませんね。(A)

広報たかしま 平成30年 11月号 No.226
発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒520-1592 滋賀県高島市新旭町北畑565番地
☎0740(25)8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
t-info@city.takashima.lg.jp

R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用。